

式 辞

桜が咲き誇るこの佳き日、宇都宮大学は、学部 1060 名、大学院 432 名、総勢、1492 名の皆さんを、あらたにお迎えすることになりました。皆さん、ようこそ宇都宮大学にいらっしゃいました。宇都宮大学を代表し、お一人おひとりを、心から歓迎いたします。また、これまで温かく見守り、支えてこられたご家族ならびに関係の皆さま、心よりお祝い申し上げます。

本日、学部に入学者は高校生時代、また、大学院に入学者は大学学部時代など、新型コロナウイルス感染症への対策のため、思い描いていたような高校生時代、大学生時代を過ごせなかった方々も多いのではないかと思います。現在、第 8 波も収束してきた状況であり、国や自治体の対策方針もかなり縮小傾向にあります。ただ、まだ、アフターコロナ、ではなく、ウイズコロナの状況であり、5 類感染症への移行も、5 月の連休明けから、ということでもあることから、本日の入学式も、保護者の皆様方のご出席はお控えいただくなど、内容、規模、ともに縮小して開催しておりますことをご理解ください。

しかし、本学独自に定めておりましたさまざまなコロナ対策のための規制は、この 4 月よりほぼ解除し、コロナ禍以前の状況に戻ってきております。授業も、基本、対面での実施としておりますし、海外留学も再開しております。クラブやサークル活動への規制もありません。ただ、繰り返しになりますが、ウイズコロナの状況の中、大学としても、個人としても気をつけなければいけない場面もありますので、大学からの案内やお知らせ等をしっかりと確認するよう、心掛けてください。もちろん、大学は、全学をあげて、安全、安心な学びの場の提供に務めておりますので、有意義で実りのある大学生活、大学院生活を送っていただきたいと思っております。

さて、宇都宮大学は、150 年近い歴史と伝統を持ち、そのルーツは明治から大正にかけて、栃木県に設置された二つの教育機関である、栃木師範学校と宇都宮高等農林学校にあります。それぞれ、現在の共同教育学部と農学部の前身です。その後、昭和に入り、地元からの強い要請を受けて工学部が、そして、平成には国際学部が、それぞれ設置されました。また、7 年前には全国で初めての文理融合型の地域創生系学部として地域デザイン科学部が設置され、現在、5 学部からなる総合大学として新たな歴史を刻んでいます。また、大学院は、博士前期課程および博士後期課程、ともに、地域創生科学研究科という 1 研究科に統合されたものとなっています。皆さんを含め約 5 千名の学生が学び、330 名の教員と 200 名の事務職員が皆さんを支えており、これまでに約 6 万人の学生が本学を巣立ち、社会の第一線で活躍してきています。

宇都宮大学は、栃木県唯一の国立大学法人として、地域の知の拠点であり、中核となるべく、教育と研究を推進しています。「地域とともに学生の未来をつくり、学生とともに地域の未来をつくる」をスローガンに掲げ、学生を大切に、地域と連携する取組みを進めております。「地域」という言葉は、ともすると、何か狭い気がするかもしれません。しかし、広く世界に向かってはばたくためにも、しっかりと自分の足もと、足場を固める必要があります。地元のことをよく知ることは必要です。また、どの世界に行っても、そこには「地域」というもの、「地域」という考え方があります。したがって、皆さんにとって、今後、未来へ向かって進むためにも、「地域」というものを意識することは重要だと考えております。

ところで、皆さんは、どのような夢を持って、どのような自分の未来を想像して、宇都宮大学、宇都宮大学大学院に入学、進学されましたでしょうか。社会へ、未来へはばたくために、確固たる夢を持って入学、進学してきた人は、その夢の実現に向かって進んでください。もちろん、これから自分の

夢を描こうとしている人もおられるでしょう。その場合も、しっかりと夢を描き、自分の将来の目標を定めてください。宇都宮大学は、いずれの方々に対しても、その夢の実現をサポートします。皆さんが、自分の描く道を、しっかりと進めるよう、お手伝いをします。そのために、本学では、教育プログラムの改革や教育研究環境の充実を図り、教職員一体となって提供しています。

宇都宮大学には、昨年度より定めた「宇大スタンダード」というものがあります。これは、専門分野に関する知識や技能とともに身に付けて卒業していただきたい「学修力」「情報活用力」「論理的思考力」「表現力」「協働力」「課題解決力」という6つの汎用的能力のことで、この6つの力は、大学での学びに留まらず、社会に出た後も役立つものであると考えています。

この度、皆さんが入学試験に合格し、入学されたこと、これは大きな目標を一つクリアされたことです。しかし、これはゴールではなく、新たなスタートです。皆さんの前には、無限の未来、可能性が広がっています。どうぞ、色々な力を身に付けて、ご自分の夢に向かって進んでください。

しかし、どれだけ環境が整っていても、皆さんが、自らそれを活かさなければ、夢の実現には届きません。大学での学びには、受け身ではなく、自ら進んで掴み取っていくことが必要です。この「自ら」という姿勢は、社会に出てもいっそう必要となります。自分の夢の実現に向けて、積極的に取り組んでください。

宇都宮大学では、「3C精神」というものを大切にしています。それは、「Challenge：主体的に挑戦する」、「Change：自らを変える」、さらに「Contribution：広く社会に貢献する」の3つのCです。この「3C精神」に加えて、「3Cアクション」も掲げています。これは、「Connect」「Commit」「Collaborate」の3つのCで、主体的に社会とConnect繋がり、責任を持って社会にCommit関与し、多面的に社会とCollaborate協働する、というもので、社会との繋がりを大切にしながら行動しよう、というものです。この「3C精神」と「3Cアクション」においても「自ら」という姿勢が重要です。宇都宮大学の一員となられた皆さんには、ぜひとも自分の夢の実現のために、自ら未来を切り拓く力、より良き社会づくりを担う力を養って頂きたいと思えます。

ところで、昨年より、民法における成年年齢が18歳となりました。明治時代からの約140年間、日本での成年年齢は20歳と定められていましたので、大きな変化です。民法で定める成年年齢には、「一人で契約をすることができる年齢」という意味や、「父母の親権に服さなくなる年齢」という意味があります。つまり、成年に達すると、自分の意思で様々なことができるようになるということです。ここでも、「自分で」「自ら」ということが大事なポイントです。権利もできますが、一方では、責任も重大となる、ということでもあります。自分で考え、しっかりと判断し、社会の一員として、責任を持つての行動や振舞いができるように努めてください。

なお、成年年齢が18歳となったからといって、飲酒や喫煙などは変わらず20歳から、となっていますので、できるようになったことと、これまでと変わらないことについて、しっかりと確認してください。

さて、自らの夢を実現させるために、皆さんは、学部や学科、大学院のプログラムなど、いわゆる専門分野を選んで入学されてきたことと思います。今後、その専門分野を学び、醸成されていかれることとなりますが、実は、幅の広い知識や教養に支えられてこそ、高い専門性は確立されます。皆さんは、自分が「文系」と「理系」のどちらかだと思っておられませんか。また、自分は文系だから理系の学びは不要だ、とか、例えば、工学部で機械を学びたいのだから、同じ工学系でも情報や電気、化学などの勉強は不要だ、などと思っておられないでしょうか。もちろん、専門分野を極めることは重要です。しかし、専門分野とは異なる分野の多様な知識、知見が加わることにより、新たな発

想が生まれ、より高い専門性が活かされることとなります。多様性、ということがよく言われるようになってきています。多様な社会、世の中に対応するためにも、専門性を深める一方で、全く関係なさそうな内容も含めた多くの分野に触れるように努めてください。絶対にどこかで役に立ちますし、繋がることを保証します。大事なことは、様々な分野のそれぞれの考え方や方法に触れ、多様で幅の広いものの見方、我々はこれを複数の目、「複眼」と呼んでおりますが、この「複眼」の視点を持ち、「複眼」をもって物事にあたることです。そうすることにより、変化に対応する柔軟さも得られ、新しいものへのチャレンジも図れることになると考えています。繰り返しになりますが、文系、理系の枠を越えた幅の広い学びをし、複眼的な視点を身に付けてください。

ところで、学び、というものは、いわゆる授業での学びだけではありません。大切な学びの一つは、多くの人間と触れ合い、また、社会での実体験を通して、人間としての幅を広げることです。例えば、サークル活動やボランティア活動に参加し仲間や友だちをつくるなど、国内外の色々な場面で多くの人間と出会う、これらも大切な学びです。さまざまな場所や機会の人と触れ合い、議論や意見交換をし、時に感情をぶつけ合ったりすることで、自分とは異なる視点や考え方があることを知る、これも「複眼」です。このように、相手の想いを理解し、相手を尊重できる豊かな人間性を育むこと、これが、コミュニケーション力の醸成でもあります。他人を思いやる力を身に付けることが、自分も受入れられることに繋がります。

「複眼」に加えて、今日はもう一つの言葉、「共創」という言葉をお示しします。競争争う、という意味の競争ではなく、共に創り上げていく、「co-creation」という意味の「共創」です。一人ひとり、個々の存在とその意思は非常に重要で大切なものですが、皆さんは、独りで存在しているわけでも、一人で成り立っているわけでもありません。多様で多彩な「他」の存在とともに、色々な場面で共に行う、ともに進んでいく、ということも重要です。多様な社会においては、「複眼」を持って、そして、「共創」して対応することが、一定求められています。これから大学生活を送る上で、この「共創」と「複眼」というキーワードを心に留めておいてください。

冒頭にも申し上げました通り、まだ、ウイズ・コロナの中、制限や制約が完全にはなくなっておりません。しかし、このような状況への対応も、皆さん自身が、自ら、その対応を行うことで、より良いものにできるはずです。もちろん、宇都宮大学は全学、全教職員をあげ、地域とも協力しながら、安心、安全な場の提供に務め、充実した大学生活を送れるよう、皆さんをサポートします。安心して、大学を頼ってください。私も、できる限り、皆さんからの声を聞き、皆さんにお話しかけたい、と思っておりますので、気軽にお声掛けください。

宇都宮大学で学び、逞しく成長された皆さんと卒業、修了を祝い合う日を楽しみに、本日の私の式辞といたします。みなでがんばって進みましょう！

令和5年4月5日

国立大学法人宇都宮大学長

池田 幸